

## 会議要旨

会議の 名 称	令和7年度第4回川越市外国籍市民会議
開催日時	令和8年1月28日（水） 午後5時30分 開会 ・ 午後7時10分 閉会
開催場所	川越市国際交流センター 研修室
座長氏名	焦 雁
出席者 氏名 (人数)	須賀 景子、田中 斎弓、水上 春華、林 玉貞、レ・レ・ワイン、 安 昌美、ゴードン・ハイワード (7名)
欠席者 氏名 (人数)	王 勇、グエン・ティ・フオン・タオ (2名)
事務局等 職員氏名	国際文化交流課 福田課長、島居副課長、泉名主任
会 議 次 第	<p>1 開会</p> <p>(1) 挨拶</p> <p>(2) 事務局からの報告事項</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 自転車の交通ルール</p> <p>(2) その他</p> <p>3 閉会</p>
配 布 資 料	<p>(1) 令和7年度第4回外国籍市民会議 次第</p> <p>(2) 第4回外国籍市民会議資料</p> <p>(3) 自転車を利用する皆さんへ</p> <p>(4) 道路交通法一部改正のポイント</p>

議　事　の　経　過
1 開会
(1) 座長が挨拶し、開会した。
2 議題
(1) 自転車の交通ルール
事務局より、前回の会議で出た意見の概要を説明し、課題や解決策について協議を行った。
主な意見
<u>1. 課題</u>
①交通ルールの理解について
・「青切符」という言葉が難しく、具体的な内容がイメージしにくい。
・ルールの認識が曖昧な人が多く、自転車のルール全体を知らせる必要がある。
・自転車の違反が車の免許に影響することが知られていない。
・16歳未満は反則金がないため「ルールを守らなくてよい」と勘違いされる恐れがある。
・子どもを自転車の前後ろに乗せることの可否など、細かいルールがわかりにくい。
・一方通行の標識にある「自転車を除く」などの補助標識がわかりにくい。
・埼玉県は全国的に見ても自転車の事故率が高い。
②周知用のツールについて
・文字だけの情報は外国人にとってわかりにくい。
・啓発チラシなどのイラストが、必ずしもヘルメットを着用したものになっていない。
③情報の周知について
・日本語の情報だけでは、日本に来たばかりの人に内容が伝わらない。
・16歳未満の層に対し、学校や家庭での教育が不足している。
④その他
・ヘルメットを着用しない理由として「置く場所がない」などの物理的な問題がある。
・シェアサイクルにヘルメットが装備されていない。
・川越市特有の「狭い道」「暗い道」での無灯火運転が多く見られる。
<u>2. 解決策</u>
①交通ルールの理解について
・「自分の命は自分で守る」という意識を啓発する。
・バイクと同様に「車道を走る乗り物」として、ヘルメット着用の必要性を説く。
・外国人にとって日本人がお手本（先生）となるよう、まず日本人がルール

を徹底する。

- ・16歳未満にも「反則金はないが責任はある」ことを学校や学習塾から伝える。

②周知用のツールについて

- ・外国人にも直感的に伝わるよう、イラストや動画を活用する。
- ・外国人が特に間違いやすい、わかりにくい部分を抜粋してまとめること。
- ・動画は「一度見逃してもすぐ見直せる」よう、短いものを作成する。
- ・「イラスト+反則金の金額」をセットで記載し、注意を促す。
- ・キャッチーな「スローガン」を作って啓発する。
- ・生活ガイドに二次元コードを載せ、詳細情報へ誘導する。
- ・他自治体の優れた資料を参考に、川越市独自の啓発物を作る。

③情報の周知について

- ・ゴミ問題の周知手法を参考に、日本語学校、自治会、技能実習生の監理団体、不動産業者、観光案内所などで配布する。
- ・エスニック料理店の店主から、来店する同郷の人へ伝えてもらう。
- ・市内への転入時や、学習塾などを通じてターゲットに直接届ける。
- ・自治会が作成したポスターをマンションの掲示板に貼る。

④その他

- ・自転車店で、自転車とヘルメットをセットで割安販売する。
- ・駐輪場でヘルメットをレンタルできる仕組みを検討する。

3. その他意見

- ・学生は学校の校則があればヘルメットを着用している。
- ・中国の事例：ヘルメットを飾りなどで「おしゃれ」にして楽しむ文化があり、普及している。
- ・タイの事例：ある警察官がヘルメットをしていない人に、その場でヘルメットを配る活動がテレビで広まった。
- ・韓国の事例：テレビ番組のキャンペーンによって一気にルールが広まった。

(2) その他

第5回会議の開催日時は、3月29日（日）午前10時に開催することを決定した。

3 閉会

以上